

はくぶつかん おうちで博物館めぐりえ かいせつ

【013 横須賀市自然・人文博物館】

かい せつ 説明：この建物は、横須賀市自然・人文博物館です。図案では自然部門の建物（自然館）が描かれています。昭和45年に竣工した建物です。

昭和45年ころの日本の公共建築は、モダニズムの流れの中で、インターナショナル様式の日本版的な形態が普及していました。具体的にはバルコニーや庇などによる水平線が強調される形態意匠で、今でも町中に多く見られます。その後、水平線を断ち切るかのような垂直な線を入れ込むようになり、バルコニーは失われ窓などの開口は小さくなり、閉鎖的な形態意匠が多くなります。昭和57年の人文部門の建物（人文館）は、その流れの中にあります。

現在、町の中にあるビル建築の多くは昭和40年代以降のもですが、建築意匠的な視点でみると、その建築年代はおおよそわかります。建物のスケッチをするとさらによくわかります。

てん じ 展 示：博物館にお出かけの際には、ぜひ建物もご覧ください。

たい しょう 対 象：大人向け。

こ ツ：建物の写生は、写真を参考にすると便利ですが、写真を下敷きにするとうれずによる補正のため、歪んでしまいます。一方、建築学的な透視図の描き方もあります。視点を対象物の高さに合わせて、2点あるいは1点の焦点に建物の輪郭や開口部の線を収束させるように描きます。今回のめぐりえの線画は、写真と透視図を参考に作成したスケッチです。

このため、風景を正確に切り取ったものではないのですが、スケッチのいい点は、見て余分な電柱を省略したり、強調したい部分を大きく描いたり、人物や鳥などを登場させることもできるところです。対象の色彩についても、春や秋、朝や夕方、晴れや曇り、などにより変化します。描く人の気分によっても変わります。

こどもの絵で、穴を掘っている自分の手が大きかったりすることはありませんか。見えてもないのに空に虹を描いていることはありませんか。スケッチのよさはその自由さにあるのではないのでしょうか。



めぐりえ図案「横須賀市自然・人文博物館」（実際はA4判）



博物館（自然館）



博物館（人文館）